

めまい治療の最前線で 活かされる漢方療法の実際

横浜市立みなと赤十字病院 耳鼻咽喉科 部長 新井 基洋 先生



独自の「めまいのリハビリテーション」を考案し、20年間に20万人以上のめまい患者を診察してこられた“めまい治療のトップランナー”新井基洋先生。従来の治療法では限界があるめまい治療に、リハビリと併せ漢方薬も取り入れ、効果をあげておられる。そこで、めまい治療の最前線において、半夏白朮天麻湯をはじめとする漢方薬がどのような役割を果たしているか、その効果をお聞きするとともに、全国のめまい治療に取り組む先生方へのメッセージをうかがった。

● 一般的なめまい治療

めまいを訴える患者さんが多いことは、多くの先生が実感されていることと思います。めまいに関する疫学的な調査結果はありませんが、めまいを訴える患者さんは圧倒的に女性が多く、男性の3倍以上であり、なかでも50～60歳の女性が最も多いと思われます。「寝不足かな？、更年期障害では？」とやりすごしている軽症の方まで含めると、中高年女性の7割は、めまい・ふらつきを経験していると考えてよいでしょう。

軽症の場合には安静と、経口的にベタヒスチンメシル酸塩などの抗めまい薬が投与されます。救急搬送されるような症状の激しい方は、点滴で急性期を乗り切り、亜急性期になれば抗めまい薬が投与されます。そして、薬物療法で効果が得られない場合に、理学療法が行なわれます。

めまい治療の一般的な常識は「安静＝寝ている」でしょう。間違いではありませんが100点満点ではありません。たとえば、サッカーの澤穂希さんで有名になった、めまいで最も多い「良性発作性頭位めまい症」

は、耳石器から剥離した耳石が三半規管に入ってしまうことにより発症しますから、耳石を元に戻す必要があります。この場合には、理学・運動療法の頭位治療の「エブレ法」や「レンパート法」などを行います。

手術療法が必要な場合もありますが、非常に稀で、現在は、薬物、点滴や理学療法などの非侵襲的な治療法が主に選択されます。

● 新井先生のめまい治療 ～めまいリハビリと漢方の選択～

しかし、一般的なめまい治療には限界があります。本来、運動の中枢を担う小脳には、内耳で生じた障害によるバランスの左右差を修復する力（中枢性代償作用）がありますが、これを薬で高めることはできません。そこで私は、私の恩師である徳増厚二先生（北里大学名誉教授）が特に推し進められた、この小脳の中枢性代償を利用した「北里方式」をアレンジした「めまいのリハビリテーション（めまいリハ）」を考案しました。リハビリはつらく、一人ではなかなか長続きしません

が、「一人ではなく一緒にがんばりましょう」と励ましあう集団療法により効果は高まります。そのため当院では4泊5日の入院治療を中心とした、集団でのめまいリハを行っています。しかもめまいリハで良くなった方々が定期的に来院され、ボランティアとして一緒にめまいリハの指導を行い患者さんを励ましてくださいます。私自身もめまいの経験者ですが、同じ病を得て同じ目線で語ることができる先輩がいるのはとても心強いことです。

めまいの患者さんは、情緒不安定で不安状態が強い方が多いのですが、抗めまい薬にはこのような症状に対する効果は期待できません。しかも患者さんには元気がない方が多くいらっしゃいます。元気がないとリハビリは進捗しませんが、西洋薬には「元気が出る薬」はありません。そこで、元気が出る漢方薬＝補中益気湯を併用したところ、情緒不安定が明らかに改善しました。さらに吐き気や食欲不振などの消化器症状にも効果が期待でき、めまいの適用がある漢方処方をしたところ、半夏白朮天麻湯にたどり着きました。実際に半夏白朮天麻湯を使ってみたところ、ベタヒスチンメシル酸塩と同等の抗めまい効果を実感することができ驚いています。私はめまい専門医として、半夏白朮天麻湯の有効性に関するエビデンスの構築に寄与したいと考えています。

●「めまい治療」をライフワークに

耳鼻科医の父に、「耳鼻科医になるならめまいに詳しくなっておいた方が良い」と、めまいの大家である徳増先生の下で学ぶことを強く勧められました。先生にご指導いただいてからは、めまい治療の魅力に取りつかれ、今は迷うことなくめまいの治療をライフワークに



しています。

私が医師として患者さんや世の中に貢献できることは、めまいリハによって一人でも多くのめまいに苦しむ患者さんを救うことです。めまいリハを日本中、できれば世界中に普及させたい、そのために一人でも多くの患者さんや先生にお会いしたいと思っています。

● 全国のめまい治療に取り組まれる先生方へ

めまいは耳鼻科医がよく診る疾患ですが、患者さんは最初から耳鼻科を受診するわけではありません。かかりつけの先生をはじめとして様々な診療科に相談されますし、紹介による転科もあります。めまいの科学的、機序的な勉強も大切ですが、まずは「めまい治療の1つにめまいリハがあり、また抗めまい薬と同等に漢方薬も効きます」ということをお伝えしたいと思います。特に、漢方薬という一手を知っていただくことで治療の幅が広がります。また、めまいリハは、体に傷をつけることなく、そして誰でもどこでも簡単にできます。めまいリハを活用していただくことで「めまい治療の魅力」を一人でも多くの先生に知っていただきたいと願っています。



新井 基洋 先生

1989年	北里大学 医学部 卒業
同 年	北里大学 医学部 耳鼻咽喉科 入局
1990年	国立相模原病院 耳鼻咽喉科
1991年	北里大学 医学部 耳鼻咽喉科
1996年	横浜赤十字病院 耳鼻咽喉科
2004年	同病院 耳鼻咽喉科 部長
2005年	横浜市立みなと赤十字病院 耳鼻咽喉科 部長

